

令和6年12月24日  
(2024年)

保護者のみなさまへ

吹田市立千里新田小学校  
校長 平山裕子

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ●国語《概要》

全体として全国平均をやや上回ることができている。特に「書くこと」の分野がよくできていた。しかし、「漢字」や「文法」などには課題が残る結果となった。

#### ●国語《各領域における成果と課題》

##### 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・「話し言葉と書き言葉のちがい」については、全国値を上回っている。
- ・「漢字」を書くことには、課題がみられる。

##### 情報の扱い方に関する事項

- ・「情報と情報の関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解して使うこと」は全国値とほぼ同じである。

##### 話すこと・聞くこと

- ・「資料を活用して伝える」ことや「必要な資料を分類し、関係付ける」ことは、概ねできている。
- ・「目的や意図に応じて課題を考え、伝える内容を検討する」ことについては、課題がみられる。

##### 書くこと

- ・「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、全国値を上回っている。

##### 読むこと

- ・「人物像や全体像を具体的に想像すること」については、概ねできている。

## ●国語科における成果と今後の指導改善のポイントについて

国語全体では、全国平均をやや上回るおおむね良好な結果となりました。しかし、漢字や文法など言葉の特徴や使い方に関する事項に課題があることがわかりました。新出漢字の習得のみならず、漢字の活用を意識した学習を積み重ねていくこと、また低学年からの読み聞かせや積極的な読書活動に取り組み、児童の語彙力をつけていく活動に取り組んでいきます。

## ●算数《概要》

全体として全国平均を上回るいい結果であった。しかし、全分野に共通することではあるが応用問題には課題がみられる。

## ●算数《各領域における成果と課題》

### 数と計算

- ・「立式・□を使った計算・計算の仕方」については、全国値を上回っている。
- ・「除数が小数の場合において、除数と商の大きさの関係の理解」については、課題がみられる。

### 図形

- ・「直方体の見取り図・立方体や球の体積・角柱の性質」については、概ねできている。
- ・「直径と円周の長さ、円周率の関係についての理解」では、課題がみられる。

### 変化と関係

- ・「速さの意味」や「速さと道のり、時間との関係の理解」については、全国値を上回っている。

### データの活用

- ・「グラフ・表からの読み取り」については、全国値を上回っている。

## ●算数科における成果と今後の指導改善のポイントについて

算数全体では全国平均を上回る良好な結果となりました。5年生までの基礎的な技能は身に付けてきていることがわかりました。一方で、除数と商の関係や直径と円周の長さ、円周率の関係についての理解に課題が見られました。子どもたちの「なぜ？」を大切に、一人一人が思考をする活動を積極的に取り入れながら、基礎基本の定着はもちろん、思考力・判断力・表現力の向上に努めた学習展開を行っていきます。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【学習環境・生活環境について】

- ・「就寝、起床とも毎日リズムよく過ごし、朝食をとること」については全国値を上回っている。
- ・「自己肯定感」についても、全国値を上回っている。
- ・「困っている人を助けること、いじめは絶対にいけないことだという気持ち」は全国値よりも低い。
- ・「分からないことや、詳しく知りたいことに対して自ら学ぼうとする意識」は、全国値を大きく上回って

いる。

- ・「地域や社会のために何かをしたい」という気持ちは全国値よりも低い。
- ・「友達との関係」や、「友達と協力して学習に取り組む」といった人間関係の項目は全国値より下回っている。

#### 【教科・学習について】

- ・「PC、タブレットを活用して自ら学ぶ姿勢」が身についている。
- ・今までの学習で分かった点、わからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- ・自分の考えを発表する機会では、話の組み立てなどの工夫をして発表することに課題がある。
- ・国語、算数の授業内容は理解し、普段の生活にも活用しようという姿勢がみられる。
- ・国語の勉強は大切だと考えているが、好きではない。

### 3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、国語・算数ともに基礎基本を身に着け、全国と比べてよくできていることがわかりました。学校として日々の授業で取り組んできたことが、児童の実感や実力としてつながってきたことがうかがえます。

しかし、「国語の勉強が好き」などの授業に関する項目については全国値を下回っており、楽しく、わかる授業になっているのか問い返されました。本年度の研究テーマを「一人一人が根拠に基づいて考える授業づくり」として国語の研究に取り組んでいるところですが、学ぶことの楽しさをより感じられる授業づくりを一層目指してまいります。

また、生活習慣や学習環境等の調査において、一人一人の自己肯定感が高いことがわかりました。自分を大切に思うことは、子どもたちの自信ややる気につながる素敵なことです。一方で、友達や他者とのかかわりについての課題が浮き彫りになりました。小学校の数年間をコロナ禍で過ごしてきたことも一因であるかもしれません。現代の子どもたちの課題として、インターネット等を通じた疑似体験・間接的な体験が増加する反面、人やもの、自然に直接触れるという体験活動の機会の減少が言われていますが、本校でも同じことが言えるのではないかと感じました。小学校の時期に、グループでの共同学習や話し合い活動をすること、友達と協力して何かをやり遂げる達成感を味わうことは、互いを尊重し認め合うことにつながり、子どもたちを大きく成長させます。日頃の授業、学級での集団作り、学年での活動、学校行事や様々な活動を通して、子どもたちに寄り添いながら「心豊かな千新っ子」を育む教育活動を進めてまいります。

今後も児童の自立と幅広い学習の機会を作るために、ご協力をお願いいたします。